建設通信新聞
令和6年2月28日（水曜日）

能登半島地震

地元業者の大切さ実感

足立参院議員が視察

自民党の足立敏之参院議員は26、27の両日、「令和6年能登半島地震」の被災地を訪れ、土砂崩れなどの被害箇所を視察した。

初日は、石川県輪島市の鳳輪建設業協会で協会役員と意見交換した。二俣馨副会長から「道路や上下水道、電気などのインフラの復旧に向けて、災害廃棄物の撤去・運搬を最優先で進めている」との説明を受け、「地域建設業なくしてはなしえない」と応じた＝写真。

二俣副会長から説明を受ける足立議員（右）

また、本格復旧の加速を見据え、「地元企業でできる工事は地元企業が担当すべき」とし、関係省庁に働き掛けることを明らかにした。

続いて、被害が顕著な門前町などに足を運ぶとともに、坂口茂輪島市長と面談した。

2日目は、泉谷満寿裕珠洲市長と面談した後、大谷トンネルや鳥川大橋などの現状を確認した。

足立議員は今回の視察を通じ、「のと里山海道は能登地域の背骨と言える重要な道路。能越自動車道のような（高規格道路並みの）構造に強化する必要がある」との考えを示した。